

登録10年の取り組み報告⑥

里地・里山の再生

綾町イオンの森で植樹

伐採時期を迎えた町有林のスギ材を利用し、綾中学校の校舎の建て替えを行ったことを契機に、綾町はイオン環境財団と宮崎県、宮崎中央森林組合と三者で協定を結び、2013年から伐採跡地を「綾町イオンの森」とし、植樹活動を続けています。

同年から3年間は、綾中学校の生徒など町内外から約1700人が参加して、地域に自生する樹種約1万4千本もの苗木を植えました。

新しい森づくり

イオンの森周辺の割付地区には、日向夏ミカン畑が広がっています。日向夏ミカンは、ほかのミカンの木の花粉をつけて受粉させる

必要があり、通常は人の手で人工授粉を行うことがほとんどです。しかし、自然生態系農業の推進により農業の使用が少ない綾町では二ホンミツバチがミカン畑周辺にたくさん生息していることが明らかになったうえ、二ホンミツバチが花粉を運び日向夏ミカンの生産を手助けしていることが宮崎大学の調査・研究で分かりました。

二ホンミツバチの存在は、綾町の農産物の安全性を証明する指標になり得ます。そのため、2017年からはイオンの森で二ホンミツバチの暮らしを支える新しい森づくりがスタートしています。

具体的には、周辺の日向夏ミカン畑に飛んでくる二ホンミツバチの生息環境を整えるため、花が咲く樹木を積極的に植えるなど、里山の多面的機能に注目した取り組みを行っています。2019年ま

での3年間で、延べ800人が約5200本を植樹しました。

また、イオンの森は、地元の中学生を中心とした環境学習の場としても活用が進んでいます。イオン環境財団と協働でイオンの森までの遊歩道整備や散策マップの作成も進行中です。皆さんもぜひ足を運び、里山の森を体感してください。

なお、今年の植樹活動は10月16日(土)と11月21日(日)に行う計画です。



2013年から取り組んでいるイオンの森での植樹



これまで延べ2500人が植樹に参加しています



昨年行われた中学生の環境学習「森の健康診断」



イオンの森周辺の散策マップを作成中です



二ホンミツバチが受粉を助ける綾の日向夏ミカン



割付町有林のスギ材を使った綾中学校の校舎

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター  
 ☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館  
 感染症の影響による休館等の情報はホームページで随時更新します

column ヤマトヌマエビ

河川の下流域から上流域まで幅広く生息している本種。2〜3cmほどの小さなヌマエビ類の中では、やや大型で最大5cmほどまで大きくなります。

ほかのヌマエビの仲間を網ですくうと、ピチピチと飛び跳ねるのに対し、ヤマトヌマエビは跳ねずに歩きます。陸上を歩いて移動することもできるのです。また、幼生の時期を海水が混じる環境で過ごす必要があり、小さいうちは海で暮らし成長と共に河川の上流へさかのぼってきます。そのため、河川工事や水質悪化の影響を受けやすく、近年では綾の河川でもあまり多くは見かけなくなっています。

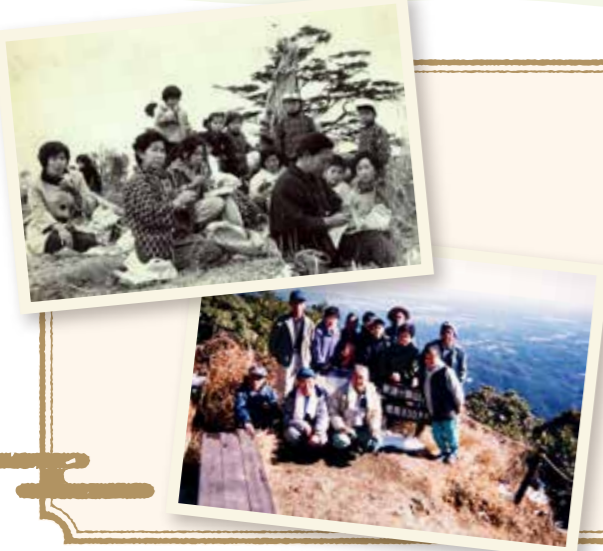


エムラの肖像

1966年と1998年に撮影された釈迦岳登山の写真です。

久木野々地区では、毎年1月3日に皆で釈迦岳に登るのが恒例でした。朝8時に出発して4時間かけて頂上へ。登り切ったらおにぎりや卵焼きのお弁当をほおばるのが子どもたちの大きな楽しみだったといえます。

最近では住民の皆さんが高齢になったことで登ることがなくなりましたが、交流の楽しい思い出として皆さんの心に強く残っているのです。



※昨年11月から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から毎月紹介します